

## そらいろのたね

ゆうじが模型飛行機で遊んでいると、キツネが近づいてきました。「素敵な飛行機だね！」とキツネは言いました。「ぼくのたからものと交換してくれないか？」キツネはポケットから水色のをたね取り出しました。ゆうじはそのたねが気に入ったので、飛行機と交換することにしました。

ゆうじは家に帰り、庭にたねを植えました。水をやると、「水色のたね」と書いた紙をそばに立てました。よく朝、小さな水色の家が芽を出しました。まめつぶほどの大きさです。「家がさいた！」とゆうじはさげびました。水をやりながら、「もっと大きくなあれ、もっと大きくなあれ！」と願いました。家はだんだん大きくなっていきました。

「わあ、なんて素敵！これはぼくのおうちかな？」ひよこ、猫、豚がそれぞれやってきて、家の中に入りました。水をやり、おひさまの光をあびて、家はさらに大きくなりました。ついに、家はお城のように大きくなり、こんどはゆうじが中に入ってみました。町の子どもたちや森の動物たちが次々と遊びにやってきました。

キツネがもどってきて、目をまるくして言いました。「わあ、すごい！なんて大きな家がさいたんだ！」よくばりなキツネはゆうじに言いました。「飛行機は返すよ。でもこの家を返してもらおうよ！」そして大声で叫び始めました。「おーい、ここはおれの家だぞ！みんな出て行っておくれ！」

100人の子どもたち、100匹の動物たち、100羽の鳥たちが、いっせいに出ていきました。キツネはおおいばりで家の中に入り、ドアにかぎをかけました。

するととつぜん、家はさらに大きくなりました。「あぶない！おひさまにぶつかるぞ！」ゆうじがさけびました。家がゆれたかと思うと、風にまう花びらのように、屋根や、かべや、まどがくずれはじめました。みんなは頭をおおって地面にふせました。

みんなが見上げると、地面には「そらいろのたね」と書かれた紙きれが一まいだけ落ちていました。

そして、そのそばには、びっくりぎょうてんして、目を回したキツネがのびていました。